
「結膜弛緩を伴うドライアイ患者における低濃度ステロイド点眼からモツギバトレブ点眼に変更した際の点眼効果の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんのカルテ情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学病院 I R B（アイ・アール・ビー）の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2026 年 4 月 1 日から 2026 年 6 月 30 日の期間に埼玉医科大学病院眼科、鶴瀬村山眼科のいずれかを受診した結膜弛緩を合併したドライアイの患者さんで、低濃度ステロイド点眼（0.1%フルオロメトロンまたはその後発品）治療を 3 ヶ月以上継続して受けている方で、低濃度ステロイド点眼液をモツギバトレブ点眼液に変更し、ドライアイの問診及び検査を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

低濃度ステロイド点眼からモツギバトレブ点眼液に変更することで、症状がどれだけ改善するのか、眼表面の傷がどれくらい減るのか、副作用が起きないのかを調べます

3. 研究期間

病院長の許可後～2027 年 3 月 31 日

4. 利用または提供の開始予定日

2026 年 8 月 17 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

モツギバトレブ点眼液を開始する前と点眼開始した約 1 ヶ月後の診察で問診されたこと（点眼回数、ドライアイの症状）ドライアイの検査（涙の蒸発までの時間の計測（TBUT）、眼表面の傷の計測（染色スコア）、眼圧の結果と、そのカルテ記載内容情報を研究に用います。眼圧に関しては低濃度ステロイド点眼による副作用が起きていないかの確認のため、モツギバトレブ点眼液を使用する 3 ヶ月前の眼圧も確認します。

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院及び鶴瀬村山眼科において、研究責任者である石川聖及び丸山貴史が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。

そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

結膜弛緩を合併したドライアイと診断された患者さんで、低濃度ステロイド点眼液をモツギバト
レブ点眼液に変更した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学病院 石川 聖（研究代表者）

鶴瀬村山眼科 村山耕一郎（研究責任者）、丸山 貴史（提供責任者）

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院 病院長 篠塚 望

＜提供元機関＞ 鶴瀬村山眼科 院長 村山 耕一郎

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先
までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃
棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 眼科 TEL049-276-1402 担当 石川 聖
月曜日から金曜日（平日）9:00～17:00 までにご連絡ください。

○研究課題名：結膜弛緩を伴うドライアイ患者における低濃度ステロイド点眼からモツギバトレブ
点眼に変更した際の点眼効果の検討

○研究代表者：埼玉医科大学病院 眼科 石川 聖